仙台市立病院医誌 12, 85-88, 1992

索引用語
残置薬
実態調査

仙台市立病院における残置薬の実態調査

福家秀敏, 佐藤剛弥, 横山郁子
築舘泉, 落合弘, 菊地正二

はじめに

病院, 診療所の外来調剤室で調剤されたものの, 患者もしくはその家族によって受取られないまま残る薬剤を残置薬[1]と称している。この残置薬の発生は, ノンコンプライアンスへとつながる重要な問題であり各医療機関ともこれらを少なくするための努力がいろいろなされているが, 残置薬は後を立たない。残置薬については多くの診療機関で実態調査がなされているが[2~7], 当院においては, 外来患者の当日残置薬および最終残置薬の現状を調査し, 残置薬発生に影響を及ぼす因子に最もかかわりがあると思われる外来処方せん枚数と残置薬数との関係について検討した。

調査方法

当院では, 患者を呼んでも薬を取りに来ないでその日の業務終了後即ち平日は午後5時, 土曜日は午後2時に残置している調剤薬を当日残置薬とし, 医師の処方日数を過ぎても受取りに来なかっ

表1. 月別の処方せん枚数, 当日残置薬数および最終残置薬数

年	月	処方せん枚数	当日残置薬数	最終残置薬数	当日残置率	最終残置率
1989	4	15581	611	20	3.92(%)	0.13(%)
	5	16864	671	16	3.98	0.09
	6	17035	629	12	3.69	0.07
	7	17097	709	18	4.15	0.11
	8	17152	604	16	3.52	0.09
	9	17019	591	12	3.47	0.07
	10	17303	701	17	4.05	0.10
	11	17181	592	12	3.45	0.07
	12	18528	757	11	4.09	0.06
1990	1	15936	430	12	2.69	0.08
	2	15729	467	17	2.97	0.11
	3	17821	538	29	3.02	0.16
	4	16256	522	11	3.21	0.07
	5	17606	608	18	3.45	0.10
	6	17286	488	18	2.82	0.10
	7	18101	598	17	3.30	0.09
	8	18003	655	15	3.63	0.08
	9	16039	644	10	4.02	0.06
	10	18442	643	12	3.49	0.07
	計	324979	11458	293	3.53	0.09

* 当日残置薬数, 最終残置薬数は処方せん枚数を示す

仙台市立病院薬局

Presented by Medical*Online

表 2. 診療科別の当日残置率および最終残置率

	処方せん枚数	当日残置薬数	最終残置薬数	当日残置率	最終残置率
内　科	88047	4080	89	4.63(%)	0.10(%)
外　科	32306	1177	27	3.64	0.08
整形外科	21961	1239	54	5.64	0.25
眼　科	33966	990	9	2.91	0.03
小児科	44895	833	27	1.86	0.06
耳鼻科	15730	615	21	3.91	0.13
産婦人科	10607	420	13	3.96	0.12
皮膚科	22533	742	18	3.29	0.08
放射線科	399	11	0	2.76	0.00
歯　科	2086	54	6	2.59	0.29
泌尿器科	13074	353	6	2.70	0.05
麻酔科	1339	50	0	3.73	0.00
神経科	15850	485	7	3.06	0.04
脳外科	22186	409	16	1.84	0.07
計	324979	11458	293	3.53	0.09

* 当日残置薬数，最終残置薬数は処方せん枚数を示す

表 3. 診療科別の最終残置薬数

年	1989									1990									
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
内　科	9	6	2	5	6	2	6	8	1	4	3	8	4	6	3	7	6	1	2
外　科	2	2		1	2				2	1	7	1	1	1		4		1	2
整形外科	1		4	1	3	4	3	3	3	1	2	7	2	4	4	3	3	3	3
眼　科	1	1				1	1			1		1		2			1		
小児科	2	2	3	5	2		1			1	1	1	2	2	2		2	1	
耳鼻科	1	1	1	1	1	3	1		1		1	2	1		3			2	2
産婦人科		1		1			2		1		1	1	1		3	1	1		
皮膚科	2	1	2		2	1	1		1			6			1				1
放射線科																			
歯　科				1			1		1	1							1		1
泌尿器科	2	1								1		1						1	
麻酔科																			
神経科				2		1				1					1	1	1		
脳外科		1		1			1	1	1	1	2	1		3	1	1		1	1
計	20	16	12	18	16	12	17	12	11	12	17	29	11	18	18	17	15	10	12

た調剤薬を最終残置薬とした。調査期間は 1989 年 4 月から 1990 年 10 月までの 19 カ月間とし，調剤済の外来処方せんについて診療科，患者年齢，性別，当日残置薬および最終残置薬の推移，残置薬の薬引換券番号（処方せん受付番号）等を調査した。

結果および考察

調査期間中における月別の外来処方せん枚数に対する当日残置薬数および最終残置薬数を**表 1** に

Presented by Medical*Online

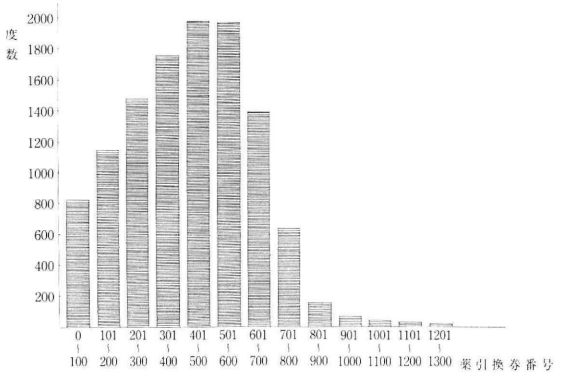

図1. 当日残置薬の薬引換券番号の度数分布
(1989年4月-1990年10月)

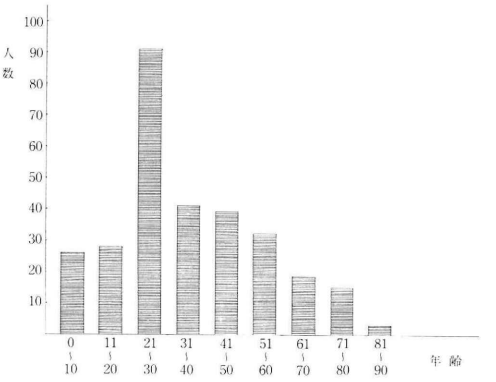

図2. 患者年齢別最終残置薬数

表4. 最終残置した人の男女構成比

年齢	男性	女性
0-10	11	15
11-20	10	18
21-30	42	49
31-40	19	22
41-50	19	20
51-60	11	21
61-70	5	13
71-80	4	11
81-	1	2
計	122	171

示した。外来処方せん枚数324,979枚のとき，当日残置薬数11,458枚，当日残置率3.53%，また最終残置薬数293枚，最終残置率0.09%であった。これら当日残置薬，最終残置薬は病院の規模等によって多少違いはあるものの，他院の報告[2~7]と同様な状況にあることがわかった。

1989年4月から1990年10月までの19カ月間の診療科別の当日残置率，最終残置率を外来処方せん枚数とともに**表2**に示し，また月別，診療科別に最終残置薬数を**表3**に示した。これらから，外来処方せん枚数は内科が処方せん枚数全体の4割近くを占め，次に小児科，眼科および外科が多かった。当日残置薬数の多い診療科は内科（4,080枚）が最も多く，ついで整形外科（1,239枚），以下外科（1,177枚），眼科（990枚），小児科（833枚）および皮膚科（742枚）であり，当日残置率の高い診療科は，整形外科（5.64%），内科（4.63%），産婦人科（3.96%）および耳鼻科（3.91%）であった。著者らは慢性疾患による当日残置薬が多いということはある程度予測していたことであったが，急性疾患が多いと思われる皮膚科，小児科，眼科等にもかなり多いことが示された。最終残置率の高い診療科は歯科（0.29%），整形外科（0.25%），耳鼻科（0.13%）および産婦人科（0.12%）であり，また最終残置薬数は，内科（89枚），整形外科（54枚），外科（27枚），小児科（27枚）および耳鼻科（21枚）で，最終残置薬数の7.5割近くを占めた。この中で特に急性疾患に適用されると考えられる薬剤が患者に服用あるいは使用されないまま薬局に残置されており，医師の意図と異なる状況をつくっている。

調剤薬を最終残置した患者293人（延べ人数）を対象として年齢別，男女構成比を**図1**および**表4**に示した。年齢別では，0~9歳の年代から80~89歳の年代までの各年齢層に最終残置薬がみられたが，男女合せて20~29歳の年代が全体の31%を占め，ついで30~39歳，40~49歳および50~59歳の年代の順で，これら働き盛りの年齢層の最終残置薬が多かった。また0~9歳の年代の患者では親の服薬管理が必要と思われる。調剤薬を最終残置した人を男女別にみると，その構成比は男性122名，41.3%，女性171名，58.7%であり，女性の方が多かった。

Presented by Medical*Online

図2より，処方せん枚数324,979枚のとき当日残置薬数11,458枚についてほぼ正規分布を示した。これは日常業務の経験から，午前11時30分から午後1時30分ごろの患者が最も多く残置する傾向があると考えられる。午後は特殊外来で，予約している患者がほとんどのため，残置が減少しているものと思われる。

おわりに

今回の調査では，眼科，皮膚科，産婦人科，耳鼻科にかかった局所疾患の患者の残置が比較的多いことがわかった。これらは症状の経過を自分で判断しやすいためかと思われる。一般に残置数は調剤数，待ち時間などに相関すると報告されているが，当院においては必ずしも同様な結果を得なかった（**表2**）。残置薬の発生にはさまざまな因子が影響しあっていると考えられるが，それらについて今後別の角度から検討し残置薬の減少，患者サービスに努めていきたいと考えている。

文　献

1） 渋谷文則：薬業事報（臨時増刊），5900, 10, 1978.
2） 渋谷文則，坂口真弓：病院薬学 **2**, 38, 1976.
3） 山岡桂子，渡利築紫，佐々木真理子　他：薬剤学 **38**, 109, 1978.
4） 小林晃子，中山和文，向　孝次：医薬ジャーナル **16**, 949, 1980.
5） 佐藤　勲：医薬ジャーナル **15**, 1766, 1979.
6） 合口美咲枝，高瀬宏司，清水忠夫：医薬ジャーナル **21**, 475, 1985.
7） 松野恒夫，水谷義勝，石津谷修　他：医薬ジャーナル **22**, 1185, 1986.

Presented by Medical*Online